

■ 学校の共通目標

授業づくり	重点	○言語能力の向上を図る。	中間評価	○ペア、グループ学習や発表の場面が多くみられた。主体的、対話的で深い学びに発展させていきたい。	最終評価	○主体的・対話的で深い学びについては、各教科等での実践の共有と、学校として分かりやすい方向性が必要である。
		○ユニバーサルデザインの工夫を取り入れる。		○どの子ども分かる授業を日頃から試行していく。		○ユニバーサルデザインの工夫は、他校の実践を参考にするだけでなく、本校の児童の実態に応じる必要がある。

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組み (10月)	最終評価 (2月)
1	国語	学 「話すこと・聞くこと」では、「いつ・どこで・誰と・何を・どうしたか」の話型を意識して発表できる。	○相手の目を見て話す、相手の目を見て最後まで聞く姿勢を身に付けること。 ○1文字ずつ丁寧に書くこと。	○話す・聞く姿勢を、適時指導し、意識させる。  ○漢字指導でも、それぞれ丁寧に書かせる。	○相手の目を見て話を聞くことができるようになった。 ○最後まで話を聞く指導は、引き続き必要である。 ○丁寧に文字を書くことを意識している児童は多いので、引き続き指導していく。
	算数	学 繰り上がりがない加法計算、繰り下がりがない減法計算は、概ね理解している。	○繰り上がりある加法計算は、十分理解できていない。	○10のまとまりを意識して計算できるよう、ノートを書かせる。	○繰り上がりのある加法計算、繰り下がりのある減法計算、繰り返学習できたので、十分身につけている。 ○文章問題を自分で学習をしたことで、文章問題よく理解して解くことができる。

学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組み (4月)	中間評価・追加する取組み (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	学 「話すこと・聞くこと」では、決まった型があると全員が自分の思いを発表することができる。また、音読は、大きな声ではっきりと読むことができる。友達の発表を聞くことについてはまだ十分に定着していない。 学 「書くこと」では、9割の児童が自分の思いを簡単な文で書くことができる。しかし、撥音便や促音便を正しく使えていない、誤字脱字が多く、片仮名の定着も、全体的にまだ不十分である。 学 ひらがなは、すべての児童が習得している。1年生の既習漢字は約9割の児童が身に付けている。	○「話すこと・聞くこと」では、人の話を最後まで静かに聞く姿勢を身に付けること。 ○「書くこと」では、自力で正しい文を書くこと。 ○「漢字・言語」では、正しく丁寧に文字を書くこと、2年生の漢字を積み残しなく覚え、正しい筆順で書くこと。	○話し手の目を見て話を聞かせることを徹底する。他の教科等においても意識させる。 ○文を書いたら、必ず読み直しをする習慣を身に付けさせる。 ○週1回、日記を宿題に家庭学習で取り組ませる。 ○可能な限り、漢字テストを行い、繰り返し書かせる。 ○片仮名の復習プリントを定期的に行い、定着を図る。	○「聞くこと」については、まだまだ不十分である。引き続き徹底して指導していく。 ○自分で読み直し、隣ペアで読み直しという2段階を踏んで身に付けさせている。 ○日記については、2学期に入りテーマを決めて書かせている。 ○毎日の漢字テストを通して、既習漢字を書けるようになってきた。(平均点も上がっている) ○片仮名については、2学期後半より定期的に行っている。	○「聞くこと」については、黙っていると静かになるようになった。 ○「話すこと」については、少人数なら積極的に話す児童がでてきた。全体的には、大きな声で話せるようにさせたい。 「書くこと」については、丁寧に文字を書く意識が高くなってきた。毎週の日記で読み手を意識した文章を書く児童が増えてきた。 ○片仮名については、残りの時間で行っていきたい。
	算数	学 1年までの学習は概ね理解している。 学 二桁+二桁のたし算(ひっ算)はほぼ全員が理解し、計算できる。	○数字を正しく表記すること。 ○ひっ算では、定規を使い、位取りに気を付けて計算すること。 ○考え方を図や言葉で適切に表現できること。	○授業の始めに、5分間計算タイムをつくり、繰り返し練習する。 ○数字の表記について、ペアで確認する時間を設ける。 ○自分の考えを言葉で発表できる場を積極的に設ける。 ○友達の考えを説明させ、表現する練習を意図的に取り入れる。	○正確に計算できる技能が身に付いてきている。 ○数字を丁寧に書く指導を行っていく。 ○授業の中で意図的に入れているが、できる児童は限られている。全員ができるよう、学習を取り入れていく。	○授業前の計算タイムは、技能が高まりとても効果的であった。 ○数字表記は、まだ課題はあるが、定規をこまめに使う習慣は身に付いた。 ○考え方を図で表すことについては、出来る児童が限られている。 ○友達の意見を聞いて理解する態度については課題が残る。
3	国語	調 文章の読み取りに関しては、おおむねできる児童が多い。 学 表出する語彙や表現に個人差が大きく、作文の力につながっていない。 学 文章を書く力については、個人差も大きく、段落分けを意識して書くことが難しい児童もいる。	○語彙が少なく、詳しく書くことが難しいこと。  ○読み取りの段階で段落相互の関係を十分に理解していない。	○週末の課題で日記を課し、語彙の学習や作文指導に生かしていく。 ○司書と連携し、国語の学習にあった図書を用意するなど、発展的な学習ができるようにするとともに、考えや語彙を広げられるようにしていく。 ○下書きの段階で、段落分けの指導を丁寧にを行う。 ○段落相互の関係についての読み取りを十分にを行い、読みの理解を深める。	○週末の課題の日記を表現や語彙の指導の際に、具体例として取り上げるなどして生かしている。今後も継続して行っていく。 ○学校司書と連携しながら、読書や図書による調べ学習によって、理科や社会の知識や発展的な学習も深まっている。 ○文章を書く指導については、文章の構造については説明的文章の読み取りと並行して行い、表現については日記指導と関連させながら行うことで少しずつ成果が出ている。	○言葉の学習については、目標まで到達したが、日常で用いる言葉が残り。 ○物語・説明文の読み取りについては、おおむねよくできている。 ○文章表現については、説明的文章と関連させながら、文章構造の理解と学習した語彙を活用した作文の課題が残る。
	算数	調 水の量、長さ、時間などの量感を問う問題に苦手意識がある児童が多い。 学 計算問題や文章題などの数学的思考については、おおむねできる児童が多いが、個人差が大きい。	○暗記が中心になっており、量感を伴った理解が十分ではない。 ○時間が経つと既習事項を忘れてしまい、定着につながない。	○実際に図つたり、比べたりして、児童が量感を実感できる算数的活動の時間を増やす。 ○東京ベーシックドリル等を活用し、繰り返し基礎・基本の定着を図る。	○量感を実感できる算数的活動を増やすことで、理解の深まりだけでなく、算数に対する興味・関心を示す児童が増えた。 ○東京ベーシックドリルの活用により、基礎・基本の定着を図ることについては、今後も継続していく。	○大きな数の概念については、児童間の理解差が見られる。 ○計算問題の基礎基本については、おおむね理解定着してきたが、長さや重さなどの単位換算については、定着が十分ではない。

4	国語	<p>調 文章の読み取り・漢字の読み書き・言葉の学習に関しては、おおむねできている児童が多い。</p> <p>学 「話す・聞く」に関しては、個人差が大きい。</p> <p>学 「作文」に関しては、文章の組み立てを考えて書くことが苦手な児童が多い。</p>	<p>○語彙が少なく、自分の思いや考えを表現することが苦手な児童が多い。</p> <p>○読み取ったことを自分の言葉でまとめることが苦手な児童が多い。</p>	<p>○話の中心を伝えたり、質問したりする時間を確保する。</p> <p>○説明文では、段落の要旨をまとめること、物語文では、叙述に即して自分の考えや思いを文章で表わす活動を多く取り入れる。</p>	<p>○自分が伝えたい内容を吟味し、言葉を選んで伝えることができてきた</p> <p>○説明文では、各段落のキーワードやキーセンテンスを見付けることができてきた。さらに、それを使って自分の言葉でまとめることができてきた。</p> <p>○脚本の学習では、セリフの奥にかくれている様子や気持ちを読み取り、動作に表したり、相手の動きに反応したりすることができてきた。</p>	<p>○漢字や言語能力も高まり、国語における基礎基本の能力が高まった。</p> <p>○聞く・話打については、調ったことを早くまとめたり、要点を落とさず話したりすることができてきた。</p>
	算数	<p>調 計算問題等基礎・基本の隔週は、おおむねできている。</p> <p>調 「活用」「数学的な考え」が他の領域に比べると低い。</p> <p>学 学習した知識のつながりを生かすことに課題がある。</p>	<p>○かけ算・わり算（筆算）の仕方は理解しているが、簡単な間違いが多い。</p> <p>○数の構成の理解が難しい児童が多い。</p>	<p>○東京ベーシックドリルを活用し、自分の苦手な内容を把握し、反復練習をし、基礎・基本を身に付ける。</p> <p>○問題を丁寧に読み取り、簡単な間違いを少なくする。</p> <p>○理解が難しい児童には、具体物を使って考えさせる。</p>	<p>○家庭学習や毎時間の学習に反復練習の時間を確保し基礎・基本を身に付けさせる。</p> <p>○既習事項を生かした発展問題を取り入れ、思考力・意欲を高める。</p> <p>○理解が難しい児童には、問題を厳選し、一緒に解き方を考えるなどの指導をし、自信を高めさせる。</p>	<p>○学力テストでは全体的に、自治体・全国平均を大きく上回っていた。特に基礎・基本の問題の正答率も高い高かった。</p> <p>○思考・判断に関する問題の正答率は、やや劣っていた。特に角度の大きさに関する問題の正答率が一番低かった。</p>
5	国語	<p>調 書くことについては、自分が体験したこと、本の内容やインターネットなどの情報から集めた材料をもとにすると、書くことはできる。</p> <p>調 自分の考えをもつことができる。</p> <p>学 考えを広げたり深めたりすることは不十分である。</p> <p>学 共通点や相違点を見つけて話し合いを深めていくことが不十分である。</p>	<p>○文章を書く際、自分の思いをまとめたり感想を書いたりする際に、語彙が不足している児童が多い。</p> <p>○自分の考えはもっているが、その考えを表現することが苦手な児童が多い。</p> <p>○自分の考えをもてるが、他者の考えと比べた後、さらに考えを深めることが苦手である。</p>	<p>○授業で国語辞典を活用することによって、分からない語彙や使い方などを調べる習慣を付ける。</p> <p>○自分の思いを表現できるよう発表を、ペア→グループ→全体という形態にし、思いを表現しやすい環境を整える。</p> <p>○インタビュー形式の活動の中で、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べ、考えをまとめる力を付ける。</p>	<p>○授業で国語辞典を活用することによって、分からない語彙や使い方などを調べる習慣を今後も継続して行っていく。</p> <p>○グループの中でミニホワイトボードを活用し、対話的学びになるよう促して行く。</p> <p>○グループで考えをまとめる機会を増やすことで、自分の考えと他者の考えを比べ、まとめる力が付くようにしていく。</p>	<p>○話し手の意図を考えながら話し合いの内容を聞くことができ、意見を出すことができるようになってきた。</p> <p>○物語の場面描写を読み取ることができ、登場人物の心情を深く読み取ることができるようになってきた。</p> <p>○読み手をひきつけるような文章表現が十分とは言えない。</p> <p>○修飾語・敬語などの語彙の活用が十分とは言えない。</p>
	算数	<p>調 整数のわり算の筆算を活用して、小数÷整数の筆算ができる。</p> <p>調 4桁ごとに数を区切り、正確に数を読めるなど、既習事項を使って問題を解くことができる。</p> <p>学 平行の直線や、平行四辺形の作図の習得がまだ不十分である。</p>	<p>○数量や図形についての意味や性質は理解している。一方、理解していない児童との差がある。</p> <p>○既習事項を生かした発展問題に取り組む際、抵抗がある。</p> <p>○自分の言葉で、分かりやすく説明することに苦手意識をもつ児童がいる。</p>	<p>○計算の間違いを防ぐために、見直しを十分にし、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>○既習事項を生かした、問題作りを取り入れる。</p> <p>○ペア→グループ→全体という発表形態を工夫しながら、言葉で説明する機会を増やし、発表する力を付ける。</p>	<p>○基礎・基本の定着を図るために、家庭学習を中心とした既習事項の復習を繰り返し行っていく。</p> <p>○既習事項を生かした、発展問題に取り組む機会を増やしていく。</p> <p>○ペア→グループ→全体という学習形態を工夫しながら、言葉で説明する機会を増やすことで、理解を深めていく。</p>	<p>○既習事項の復習を繰り返し行ったことにより、基礎的な知識を身に付け活用する力がついてきた。</p> <p>○繰り返し計算練習を行ったことにより、計算する力が定着するようになった。</p> <p>○単位量あたりの大きさの定着が十分とは言えない。</p>
6	国語	<p>調 物語文の読み取る力にやや課題がある。</p> <p>学 既習漢字が定着しない児童がいる。</p> <p>学 発言する児童に限られる傾向がある。</p>	<p>○叙述から人物の気持ちを想像力豊かにとらえることが少し苦手である。</p> <p>○漢字の止め、はね、はらいまで正確に覚えることや漢字を文の中で使うことが難しい。</p> <p>○発言して自分の考えを説明することが得意な児童とそうでない児童の差が大きい。</p>	<p>○物語文の読み取りは文への書き込みなど、人物の心情描写にも重点的を置きながら指導する機会を学期に一度は作る。</p> <p>○漢字小テストを定期的実施し、基準に満たない場合は再テストを行う。</p> <p>○一日に一度はペアなどで考えを話す機会をもつ。</p>	<p>○物語文では、叙述から根拠をもって人物の心情を考えられるようにする。</p> <p>○単元の初めに新出漢字の指導を丁寧にを行い、漢字小テストを定期的実施し、基準に達しない場合は再テストを行う。</p> <p>○スピーチや話し合い活動に重点を置き、自分の考えを伝えられるようにする。</p>	<p>○物語文では、叙述から根拠をもって人物の心情の変化に注目できるようになってきた。しかし、読み取る力が十分とはいえない。</p> <p>○繰り返し漢字テストを行うことで、新出漢字が定着するようになった。</p> <p>○スピーチを毎日行うことで、自信をもって話せるようになってきた。</p>
	算数	<p>調 数と計算分野・単位量当たりの計算の習熟が不十分である。</p> <p>学 自分の考えを表現することが不得意である。</p> <p>学 図形領域の作図がやや苦手である。</p>	<p>○基礎・基本の計算で簡単な間違いをする。見直しを十分にしていない。</p> <p>○ノートに自分の考えをじっくり書いたり、友達に分かるよう説明したりすることが全体的に苦手である。</p> <p>○対称などの意味を理解し、正確に作図することが苦手な児童がいる。</p>	<p>○東京ベーシックドリル、宿題などで基礎・基本の定着を図る。</p> <p>○問題解決型の1単位時間の流れを明確にする。多様な表現で書く、話す活動を取り入れる。</p> <p>○単位量当たりの計算は基準をはっきりさせ、数直線を用いながら正確に立式できることを目指す。</p>	<p>○宿題や朝学習で基礎・基本の学習を行い、学習内容の定着を図る。</p> <p>○問題に対して、自力解決の見通しがもてるように導入を工夫したり、既習内容を振り返ったりして生かせるようにする。</p> <p>○図形の問題では、作図を繰り返して行い、実感を伴って理解できるようにする。</p>	<p>○数と計算分野・単位量当たりの計算分野を中心に東京ベーシックドリルや復習プリントを行うことで習熟度が高まった。</p> <p>○友達と自分の考えを交流する活動を多く取り入れたことで、表現力を高め合うことができた。</p> <p>○繰り返し作図をすることで、高まりは見られたが十分とは言えない。</p>
音楽	<p>学 意識をして「聴くこと」については、少しずつできるようになってきているが、感じたことを工夫して表現することが難しい児童もいる。</p> <p>学 鑑賞の活動では、意識的にポイントを絞り「聴き取る」ことを促しているが、聴き取れている児童としない児童に差がある。</p>	<p>○「聴いて感じた」ことを工夫し自分の表現に生かす。</p> <p>○「聴く」ことの大切さを学び、意欲的に、聴いて表現することができるようにする。</p>	<p>○範唱や範奏を聴き、リズムや旋律を演奏するだけでなく、楽曲のよさや演奏の優れているところを感じ取り、表現に生かすことができるようにする。</p> <p>○歌詞を大切に、表現に生かすようにする。</p> <p>○鑑賞の活動を通して、何を聴きとればよいのか具体的に示すとともに、感じ取ったことや想像したことを伝え合うことができるようにする。</p>	<p>○楽曲を聴いて感じ取り、自分の演奏に生かそうとしている児童が多く見られる。</p> <p>○鑑賞の活動から感じ取ったことを伝え合うことについては今後も継続して行っていく。</p>	<p>○聴くことについては、少しずつできるようになってきた。互いに聴き合って合わせることの楽しさがわかってきた。音楽では、自分自身で感じたことを表現できていることが大切であるので、「聴いて感じる」ことをさらに目指して行く。</p> <p>○鑑賞の活動でもポイントを絞ることで聴いて考えることができるようになってきた児童もいるが、まだまだできない児童もいるので継続して指導していく必要がある。</p>	
図工	<p>学 感じたことや想像したことを絵や立体工作に表わすことを楽しんでいるが、自分の考えを上手く表現できない児童もみられる。</p>	<p>○子どもたちの作品づくりへの考えを意欲的に表現できるようにする。</p>	<p>○子どもたちひとりひとりの制作への取り組み方を観て、指導をする。</p>	<p>○作品の制作で使う材料などを考えて取り組んでいる姿が見られた。</p>	<p>○いろいろな描画材料使用したりして自分の気持ちや考えを表現する工夫ができた。また、工作でもいろいろな材料を使い、楽しく表現できた。</p>	

特支				
----	--	--	--	--

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。